

教科(科目)	農業(造園技術)	単位数	2 単位	学年(学科・コース)	3年(環境緑地科・緑地工学コース)
使用教科書	造園技術(文部科学省)			授業形態	必修
副教材	なし				

1 科目目標

1	造園の施工と管理に必要な知識と技術を学習し、造園の特質と造園緑化材料の特性を習得します。
2	造園の施工に必要な材料を適切に取り扱い、合理的に施工し、維持管理する能力と態度を身に付けます。
3	造園技術の学習を通して、造園が生活環境などの快適性を向上させていることを理解します。

2 学習計画

月	学習項目	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	造園技術の特色と役割 1) 造園技術の特色 2) 造園施工と管理の役割	・造園技術の特色及び造園の施工と管理の概要を学習します。 ・住宅庭園や学校庭園、公園などの具体的な例を通して、植物材料等を扱う植栽技術や作庭技術、土や石等を扱う土木技術など広い範囲にわたる総合的な技術であることを理解します。 ・造園施工と管理の現状を学習し、身近な生活環境の改善など人間の要求を満足させる空間を創出するためには、周囲の環境や目的に応じ、植物などの特性を生かした造園施工と管理が重要であることを理解します。 ・校内の植物観察や実習を通して、名称、特性等基本的な知識を身に付けます。	8	1 中間・期末考査の成績、小テストの成績、管理実習記録の提出と内容、実習態度、学習活動への参加及び態度で評価する。▼2 学期全体の評価は、中間・期末考査で50%、管理実習記録で30%、実習態度で20%の配分で行う。
5	造園緑化材料の種類と特性 1) 植物材料 ア 造園樹木	・教科書を中心に授業を展開しますが、天候が良いときには、植物園、中庭(80・90周年記念庭園)、青海Ⅱ世紀の杜で管理実習を実施します 《植物の管理(管理実習)》 1) 芝の目土、エアレーション・除草・刈り込み等の管理作業(5月中旬～10月まで2週間に1回程度) 2) 生垣(白鷺錦・ツゲ・モッコク・アベリア)刈り込み実習 3) ツツジ・サツキの開花後の刈り込み実習 4) 防除作業(殺虫剤・殺菌剤) 5) 除草 6) 松のみどり摘み(剪定)は7月初旬までに実施する。 《造園施工(施工実習)》 1) 石積工 大皆川の護岸の侵食を防止するため、昨年度に引き続き自然石を積みコンクリート工の実習も兼ねて実施 2) 芝生の造成 植物園の東側(駐車場とハクチョウゲの間)に芝生を造成します。ここは10年前はきれいな芝生であったが、管理が行き届かず現在雑草で年間数回の除草が必要であった。ここでは予算をかけない芝生の養生手法を学習する。	9	
6	植物及び工作物の管理 1) 植物の管理 造園植栽施工 1) 芝生、花壇等の造成		10	
7			7	
9	1 学期の続き	・1学期と同様に10月くらいまでは管理実習を中心に授業を展開します。 ・文化祭後は、冬囲いを中心に管理実習を実施し、雪国での管理の重要性を総合的に理解させ、1学期と同様の管理実習、造園施工を展開します。 《植物の管理(管理実習)》 1) 八重ハマナスの切り戻しを実施します。(7月下旬) 2) 薔薇の切り戻しを実施秋にも開花させます。 3) 冬囲い前に、それぞれの花木の整姿・剪定を実施し冬支度をします。	8	中間・期末考査の成績、管理実習記録の提出と内容、実習態度、学習活動への参加及び態度で評価する。
10			9	学期全体の評価は、中間・期末考査で50%、管理実習記録で30%、実習態度で20%の配分で行う。
11	冬囲い		8	
12			7	
1	造園緑化材料の種類と特性 1) 植物材料 ア 植物材料の特性 イ 造園樹木 ウ 地被植物 エ 花壇用草花	・3学期は、降雪により野外での管理実習が出来ないので教科書を中心に学習します。 ・教科書を中心に専門的な知識と能力を習得します。 ・降雪の状況にもよりますが、石灰硫黄合剤を散布(1回目)して、次年度の管理に約立てます。	8	学年末考査の成績、実習態度、学習活動への参加及び態度で評価する。 学期全体の評価は、学年末考査で50%、管理実習記録で30%、実習態度で20%の配分で行う。
2			1	

3 評価規準と評価方法

項目	内容	評価方法
関心・意欲 態度	・造園緑化材料の種類や特性に興味・関心を持って意欲的に学習したか。 ・学校の植物園、中庭(80・90周年記念庭園)、青海Ⅱ世紀の杜での管理実習に意欲的に取り組むことができたか。	・授業への参加の仕方や態度 ・造園についての関心度 ・レポートの提出
思考 判断	・剪定や刈り込みの基礎を正しく理解しているか。 ・仕事の後始末をきちんと出来たか。(清掃や道具の扱い) ・植物の特性を理解し、季節ごとの作業内容を判断できたか。	学年全体の評価は、各学期の成績で60%、各種提出物で20%、学習活動の参加の仕方や態度で20%の配分で行う。
技能 表現	・2級技術検定試験(造園)を理解し、知識の重要性を理解できたか。 ・植物の管理や造園施工の専門性について管理方法や工法についての確に処理できたか。	
知識 理解	・造園技術での管理実習の重要性を理解できたか。 ・管理実習をすることにより、造園空間の創出を維持し、学校園の環境と自然環境の保全について理解できたか。 ・2級技術検定試験(造園)の特質を理解できたか。 ・2級技術検定試験(造園)に必要な知識と技術を習得できたか。	